

# 様式C

不祥事防止のための  
心理と行動のワークシート

## わいせつ行為

[様式 C] 複数児童への  
過剰な身体接触編

このワークシートは、平成 28 年度以降、実際に起きた埼玉県の事例から「わいせつ行為(その他の性的接触)」に該当する複数の事例を抽出して共通する出来事や事故者の心理状態など\*1 を分析し、認知行動療法の考え方\*2 を取り入れて作成したものです。不祥事を起こすに至るまでには、行動に先立つ思考過程のパターンがあります。ワークシートを使って自分をモニタリングしてみましょう。

\*1 掲載に当たっては実際の事例を参考に、改変を加えている。

\*2 問題のある行動につながる考え方の癖、いわゆる認知の歪みを認識して、適切な考え方・行動へ向かわせる手法

出来事		不祥事へ向かわせる 心の声	不祥事を思いとどまらせる 心の声
日常の段階から、不祥事の発生、発覚に至るまでの経過を自分事としてたどってみましょう。		出来事に対応する心理としてあなたの思いに近い方の口にチェックを入れ、更に思い浮かべることがあれば( )の中に記入しましょう。	
日常	学級の児童たちとの関係に、壁を感じることがある。	<input type="checkbox"/> よりよい学級運営のために、児童一人一人ともっと仲の良い関係を築いていきたい。( )	<input type="checkbox"/> 仲良しな関係を目指すのではなく、教師と児童との信頼関係を築いていきたい。( )
スキンシップ	複数の児童に対して、頬や腕を触ったり、頭をなでたりといったスキンシップをするようになった。	<input type="checkbox"/> 触れることで心の距離が縮められる。児童らとの絆が深まるように感じる。 ( )	<input type="checkbox"/> このスキンシップは本当に必要だろうか。もっとたくさんの言葉を交わすことで、学級を良い雰囲気にしていこう。 ( )
親密さの高まり	休み時間に数人の児童が自分の近くに来てきては雑談をするようになった。	<input type="checkbox"/> 懐いてくれて嬉しい楽しい。 ( )	<input type="checkbox"/> 教師と児童という職務上の境を意識してコミュニケーションを取ろう。 ( )
世話したい 保護したい 欲求	下着が服からはみ出している児童がいたので、「出てるぞ～」と言いながら手で着衣を整えてあげた。	<input type="checkbox"/> 仲がよいからいいだろう。そっかしい子には面倒を見てあげなければ。 ( )	<input type="checkbox"/> 伝え方には配慮が必要だ。下着に触れる行為はいけないうだろう。 ( )
相手との 距離の 把握	よくやってくる児童の中には、大人たちに人並以上の親しさを求めようと、自分に寄りかかってくるような児童がいる。	<input type="checkbox"/> 愛情を求めているのだろう。特に傍に寄ってくる子には、出来る限り構ってあげよう。 ( )	<input type="checkbox"/> 児童に気を配りながら、少しずつ適切な境界を理解できるようにしてあげられると良い。 ( )
スキンシップ の常習化	数人の児童に対して、膝に乗せたり、首元をコチョコチョとくすぐったりするようになった。	<input type="checkbox"/> 性的な部分への接触はないので、コミュニケーションの範囲内だ。子供たちは嫌がるどころか喜んでいる。 ( )	<input type="checkbox"/> これは本当に指導と言えるのか。たとえ嫌がられていなくても、むやみに身体に触れるかわり方は適切ではないだろう。 ( )
偶然的接触	偶然、ある児童のお尻に触れてしまった。びっくりした表情をされたので、すぐさま離れ、「ごめん」と誤ると、「大丈夫、大丈夫」と笑って済ませてくれた。	<input type="checkbox"/> 少し驚かせてかかせてしまったが、笑っているから問題ないだろう。偶然に起きてしまったことなので仕方がない。 ( )	<input type="checkbox"/> 自分の心の内に、ほんのわずかでも偶然を願う気持ちや、加害の意図が潜んでいなかったと言えるだろうか。 ( )
機会を捉えた 接触	週休日に仕事をしに学校へ行くと、児童が遊びに来ていた。身体をタッチするゲームを提案し、ふざけ合う中で、児童のプライベートゾーンもタッチした。	<input type="checkbox"/> 子供たちは楽しそう。児童への接し方について、これまで周りから問題視されたことはないから大丈夫だろう。 ( )	<input type="checkbox"/> 直ちに止めなければいけない。この先、児童は、出来事を思い出しては苦痛にさいなまれることになるかもしれない。 ( )
発覚	保護者が学校に相談して発覚。初めて被害を受けていたことに気が付いた児童や、ショックで来られなくなってしまった児童もいた。	クラスのみならず頑張ったこと、楽しかったことなど、児童にとってかけがえのない思い出となるはずだった記憶まで、二度と思い出したくない恐ろしい記憶に塗り替えてしまったと思う。 被害者をはじめ、保護者や同僚、自分の家族からの信頼も裏切ってしまった。仕事を失った。同じ場所に住み続けることも難しくなった。	

## セルフトーク 自分自身のモニタリングをしてみましょう。

「不祥事へ向かわせる心の声」が強いところや、「不祥事を思いとどませる心の声」が弱いところはどの段階でしたか。

(記入しましょう)

あなたが、不祥事に向かう段階を確実に防ぎ止められると思うのはどの段階ですか。それは何故ですか。

(記入しましょう)

あなたにも事故者の特性と共通するものがないか考えてみましょう。

◆参考◆ 事例分析から見た事故者の特性の共通点 (ここに掲げた特性に当てはまる者全てが問題のある行為を行うわけではありません。多くの教職員に当てはまるものもあります。)  
子供との親密な交流の機会を日々求めている／子供から好かれない・好かれやすい／日常から児童生徒とスキンシップを取っている

(記入しましょう)

あなたが今、大切にしたいと思っていることは何ですか。(あなたが「大切にしたいこと(人・物など)」は、不祥事を思いとどませるためのブレーキです。もし、あなたが不祥事を起こしてしまったら、「大切にしたいこと」を守ることができなくなってしまうかもしれません。)

(記入しましょう)

## 防止策 不祥事を食い止めるためにできることを考えましょう。

あなたの「不祥事へ向かわせる心の声」を「不祥事を思いとどませる心の声」に切り替える方策は何ですか。

(記入しましょう) 考え方:

(記入しましょう) 具体的な行動:

あなたが同僚だった場合にできることは何ですか。

(記入しましょう)

あなたの職場で、児童生徒との身体接触が行われることはありますか。「あり」の場合は、どんな理由ですか。

なし・あり(ある場合には具体的な内容を記入しましょう)

このような事故を起こした場合に問われる①～④の責任について、それぞれ具体的に考えましょう。

(記入しましょう)①行政上の責任:                      ②刑事上の責任:                      ③民事上の責任:                      ④社会的な責任:

同じような事故を、あなたの職場で絶対に起こさない・起こさせないようにするために、みんなで取り組めることを考えましょう。

(記入しましょう)